

### 第3回球磨村復興計画策定委員会（書面）にかかる意見整理

資料-1

意見概要	計画への反映案
1 はじめに（P1）～3 復興に向けた村民意向（P16）	
アンケート結果についてグラフと文章の割合が一致していない	被害状況、アンケート結果について数値等修正
ある程度限られたところに居住するには利便性やソフト面だけでなく、病院や福祉施設などの社会施設が必要。地域の中に商店を復活させることも必要	5-2-4①「保健・福祉・医療の拠点整備」に反映 5-4-3②「仮設店舗による商店の早期開設支援」に反映
中学生の回答では「村外に出たい」との約6割の結果に、安全・安心できるそして夢希望の持てる村づくりに向けた早急な対応が必要と感じた	7後期計画に向けて、8計画の推進に向けてに反映 ・まずは安心して暮らせるよう、生活再建や防災の取組みを進めつつ、将来ビジョンのような夢・希望の持てる村づくり村民と一緒に進めていきたい ・地域別協議会を活用し村民と一緒に進んで復旧・復興を進めていきたい
球磨村に住み続けたいとの意見が多いので、復旧・復興を村民全員で考えていく必要がある	
4 復興に向けた基本方針（P18）	
最低限必要な機能の早期復旧と早期の生活再建をもっと前面に出したらどうか。インフラ整備には長期の時間を要するため、短期の目標と中長期の目標の2段階で記載することも検討してはどうか	4-2基本目標本文を修正
災害体験を忘れずに記録し、自身と後世の人々への教訓とするべく残していくべき。今回の災害で多くを学んだ、特に人々との「絆」は村民の多くが感じたと思う	5-5-5①「地域再生に合わせた自主防災活動の促進」に反映 ・災害遺構を含め防災教育の充実を図る
現在の球磨村の児童数や、今後の予測から小学校の統合も考える時期にきている。子ども達が安全に体を動かせる場所を作って欲しい	5-1-4①「教育環境のあり方の検討」に反映 5-5-2①「球磨川水系流域治水の推進」に反映 ・運動公園等の整備について浸水区域の活用を想定
5 復興に向けた計画体系 5-1計画体系（P19～P20）	
主要施策の中で「重点」はどのような位置づけなのか明示したほうが良い	・各施策の中で、優先度・緊急度の高い施策として、本文に記載
【くらし】【つなぐ・きずな】【にぎわい】【なりわい】【そなえる】について、分かりやすく名詞でそろえてはどうか。	・【つなぐ・きずな】⇒【きずな】 ・【そなえる】⇒【そなえ】に修正
復興過程の中で生活機能の集約による地域拠点の形成を行っていく必要があると考える。将来的な村の空間構造をどのようにしていくかビジョンを立てる必要がある	・今後の村づくりにおいては、流域治水や人口ビジョンの見直しを踏まえ、住民意向を確認しながら検討していく

意見概要	計画への反映案
保護者へのケアも視野に入れて欲しい	5-2-1①「被災者の見守りや生活相談による心身のケア」に反映 ・保護者含めきめ細かなケアを実施していく
村民の考える村の未来予想図や魅力ある地域資源について、もう一度掘り起こす作業も今回の災害を契機にやってみるのも大切である	・地域別協議会を活用し村民と一緒に村の将来について考えていきたい
語り部ツアーなど、災害そのものを題材としたツアーの造成は防災教育にもつながり、地域の宝を繋いでいくにも効果がある	5-5-5①「防災教育の推進」に反映。 ・語り部など、具体的な防災教育の在り方は今後検討していく
5 復興に向けた計画体系 5-2-1【くらし】被災者の生活再建（P21～P23）	
宅地の確保位置や公営住宅の建設位置は今後の村の骨格を作っていく上で重要	5-1-1「安全な宅地の確保」、5-1-2「公営住宅の整備」に反映。 ・被災者への詳細な意向調査や緊急治水対策などの外的要素を踏まえて建設予定地を決めていく
空き家の有効活用や、交通環境について通学面への利便性を重視して欲しい	5-1-5①「交通環境の早期復旧」に反映。 ・コミュニティバスの通学・通勤など住民のニーズに合わせたサービスの提供を検討していく
5 復興に向けた計画体系 5-2-2【つなぐ・きずな】地域コミュニティの再生と環境に配慮した地域づくり（P25～P26）	
保健・福祉・医療の充実について、後期ではICTを活用したサービスの提供も検討していく必要がある	7後期計画に向けてに反映
保健・福祉・医療の拠点整備の取組みがR5からになっているが、被災後の生活はストレスが多く、健康状態が悪化していくことが予想されるため、早期に補完する取組が必要ではないか	5-2-4①「村内での再建支援」はR2から実施に修正 ・住民のケアは5-2-1①「被災者の見守りや生活相談による心身のケア」で対応
コミュニティの再生や地域文化の復活を通した村民の誇りを取り戻す取組みを進めるべき。人と人との結びつきこそが恐怖を打ち消す武器だと思う	5-2-3②「地域文化の復活」に反映
コロナ感染症対策の中、コミュニティ作りが難しいが、村民総参加できる取り組みへとつなげて欲しい	同上
村外に出てしまった人や、一時的に離れている人たちが、年に一回でも戻れる・集まれる機会の創出	同上
5 復興に向けた計画体系 5-2-3【にぎわい】球磨川と共生する村の自然を活かした観光村づくり（P27～P28）	

意見概要	計画への反映案
今まで人々は球磨川から癒されてきたと思う。変わらずあることのありがたさと、維持していくことの重要性を次代を担う子ども達にもしっかり伝えなければならない	5-2-5③「村民総参加型の環境保全・環境教育の推進」に反映 ・全住民が球磨川及び流域の保全に係る中で、また環境教育を通じて子供たちの球磨川に対する誇りの醸成を図っていきたい
住民との協働で生き活きとした村づくりへと発展できるよう、第三者から意見を聞き取り組んで欲しい	・地域別協議会の中で、関係機関や多様な主体(外部支援者)との情報共有や協働の機会を通じて村づくりを進めていきたい
球泉洞やかわせみに加え休耕田を活用して村外から多くの人が集まれる施設を作るなど、子供から高齢の方までゆっくり出来る空間を作ることで、リビングや村の活性化に繋がると思う	5-3【にぎわい】の各主要施策に反映 ・地域資源を活用した民博の推進などを検討したい
<b>5 復興に向けた計画体系</b> <b>5-2-4【なりわい】山の暮らしと農林業・商工業の生業再生（P29～P30）</b>	
生業の活力回復、雇用確保、基盤の復旧やスマート農林業の導入等、地域産業の再建支援への取り組みは大変だが頑張らなくてはならない	・住み続けるため、また新たな住民を確保するためにも、生業・雇用は重要と考えている ・球磨村の実情に合った雇用を官民連携で考えていきたい
生活に必要な店舗が無いため、商店、飲食店等の早期再開が必要	5-4-3②「仮設店舗による焦点の早期開設支援」に反映
多くの商店が営業できない状況にあり、高齢者にとっては食材の確保も難しい状況。毎日の生活用品も必要とされている。	・また買い物支援については5-1-5②「生活基盤の早期復旧」に反映 ・仮設団地での店舗の営業開始、移動販売の再開を実施している
<b>5 復興に向けた計画体系</b> <b>5-2-5【そなえる】災害に強いむらづくりに向けた復旧と備え（P31～P33）</b>	
避難対策の強化に関する取組にも住民に積極的に参加してもらうことで、より住民意識が高まり、防災体制の整備に繋がる	5-5-5①「地域再生に合わせた自主防災活動の促進」に反映 ・自主防災組織を村内全域で整備すること、同組織の活動を活性化させることで整備が可能と考える
被災者の高齢化が気になる。福祉と環境がともに豊かなところに人は住みたいと考えるのではないか	・今後被災者の詳細な意向について、支え合いセンターとの共同で調査を実施する予定
迂回道路の整備が必要。長時間の停電等へも対応できるような蓄電施設が各地区にあればいいと思う。	5-5-1の各種施策に反映 ・また、5-2-5①「公共施設や住宅の省エネ化の推進」、同②「再生可能エネルギー事業の推進」とも連携させていく
<b>6 地域別の復興方針（P35～P46）</b>	
高齢化率を示し、割合が高い地域については、日常時のコミュニティの活性化、自主防災活動の促進を意識付けしたほうが良い	・今後、自主防災組織の村内全域での組織化、ネットワーク化に取り組む際に、住民に高齢化率を提示したいと考える
（友尻地区～宮園地区）道路の拡張や大雨時にも通行可能な安全な道路が必要	5-5-1「道路、橋梁等インフラの早期復旧」に反映 ・地域間をつなぐ幹線道路・生活道路は、関係機関（JR等も含め）と調整を行っていく

意見概要	計画への反映案
7 後期計画に向けて 球磨村の将来ビジョン（P47～P48）	
<p>住民が思っていることは、球磨村で生活し、昔からの文化・財産を受け継ぎ、これからの世代に伝えていくことを望んでいる。 1年でも早く「大復興球磨村ふれあい祭り」が出来るよう村民と力を合わせ取り組んで欲しい</p>	<p>5-2-3②「地域の文化の復活」に反映  <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、5-3「にぎわい」の各種施策にもあるが、球磨村の地域資源を外からの評価を基に整理し、誇りの醸成に繋げていきたい</li> <li>・「ふれあいまつり」については出来るだけ早く復活させたい</li> </ul> </p>
8 計画の推進に向けて（P49）	
<p>図式化等で村民に分かりやすくしたほうが良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域別協議会の立ち上げに関する説明の際には、より丁寧な説明を行う</li> </ul>
その他（全体的な意見などお気づきの点）	
<p>被災者に対する取組みや支援に時間的なギャップが存在しないか、優先順位が適切であるかももう一度精査し、復旧から復興へシームレスに繋がるようお願いする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの再建を軸に復旧復興を進めていく</li> <li>・関係機関等との連携・協力・協働を通じて、継ぎ目のない復旧復興に努める</li> </ul>
<p>”ピンチはチャンス”と考え、飛躍的な復興へ繋がるよう、村の価値を高める思い切った目玉となるような施策を掲げることも必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵空事にならないよう、地に足の着いた着実な復興が、遠回りに見えて近道になると考える。将来のビジョンに近づけるよう、行政や住民、外部支援者との連携を通じて各事業を推進する</li> </ul>
<p>読んだ後に明るい未来を感じられるような、頑張っていこうという気持ちになる工夫も必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に記載されている各種施策が目に見えて動いていることが、住民の不安を払しょくすることに繋がると考える。住民への情報共有を強化することを検討していく。</li> </ul>